

大田市下水道基本計画 (変更案)

概要版

大田市上下水道部下水道課

◆ 基本計画見直しの目的

公共下水道など汚水処理施設の整備計画を定める下水道基本計画は、定期的に内容の点検を行い、将来人口の想定と実態の差異など、社会情勢の変化に合わせて、適宜見直すことが必要です。現在の大田市下水道基本計画は、第4次基本構想として平成30年度に見直したもので、この間5年余りが経過し、少子高齢化による人口減少や、厳しい財政状況など社会情勢の変化が進行しています。このような中、今後も継続的な汚水処理施設の整備を進めていくために、計画人口など計画諸元を見直し、新しい下水道基本計画を策定するものです。

◆ 基本計画の変遷について

大田市では、これまで3度にわたり基本構想の見直しを進めてまいりました。その内容は下記のとおりです。

表 1 大田市下水道基本構想の変遷

策定年度	計画	内容
平成15年度	大田市下水道基本構想策定	旧大田市における下水道基本構想の策定
平成19年度	大田市下水道基本構想の見直し（第二次）	一市二町合併による基本構想の集約 大森地区の下水道整備手法の見直し
平成25年度	大田市下水道基本構想の見直し（第三次）	未着手処理区の整備手法の見直し 大田・久手地区の周辺区域の整備手法の見直し 大田処理区の久手処理区の接続統合
平成30年度	大田市下水道基本構想の見直し(第四次)	未着手処理区の整備手法の見直し 五十猛処理区の整備手法の見直し

◆ 現在の基本計画（第4次構想）

現在の計画は、将来計画人口を27,130人として汚水処理施設の整備手法や整備スケジュールなどを定めています。

- ・ 集合処理区 ⇒ 公共下水道事業 3 処理区、農業・漁業集落排水施設 2 処理区
- ・ 整備完了処理区 ⇒ 農業集落排水事業（波根西、元井田処理区）
特定環境保全公共下水道事業（仁摩、温泉津処理区）R2 完了
- ・ 未着手処理区 ⇒ 公共下水道事業（大田処理区）久手地区の一部、波根地区
- ・ 汚水処理人口普及率 ⇒ 令和3年度末 52.1%（島根県平均 82.6%）

図 1 現在の大田市下水道基本構想図

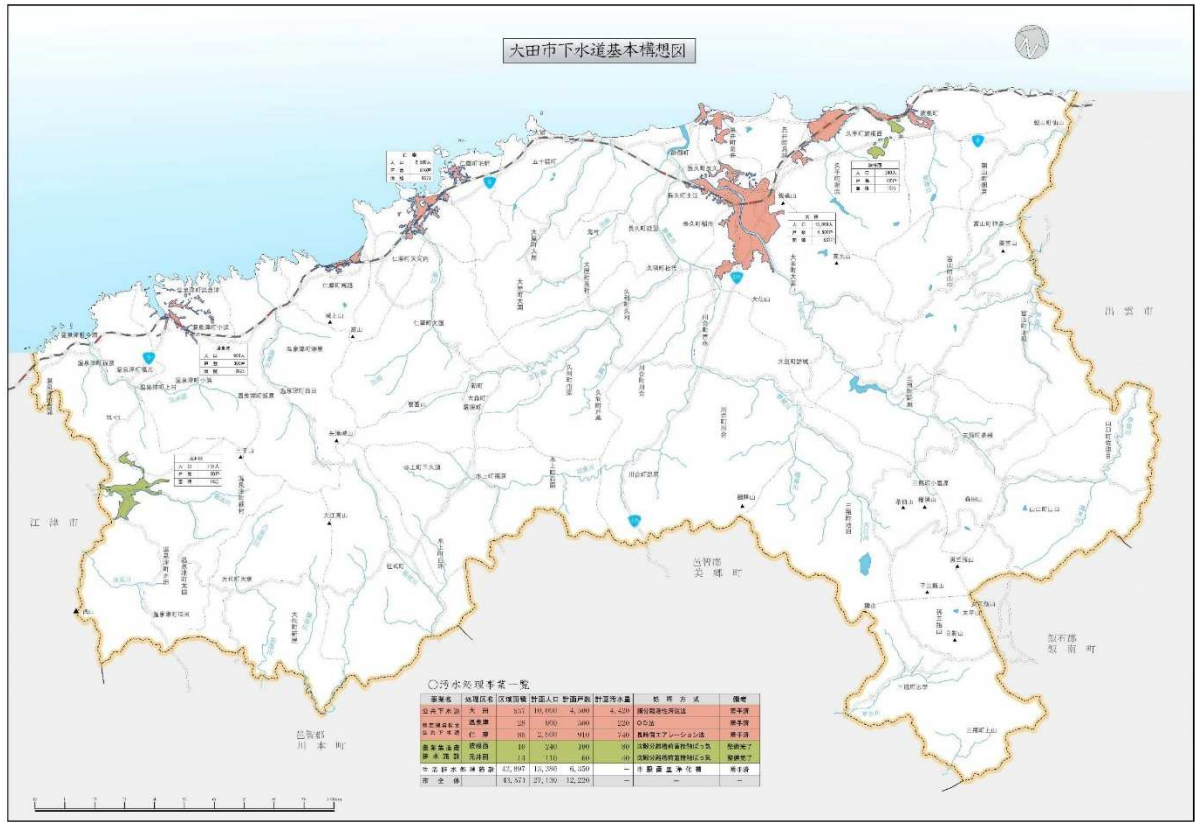


表 2 現在の大田市下水道基本構想計画概要表(現行)

事業名	処理区名	区域面積 (ha)	計画人口 (人)	計画戸数 (戸)	計画汚水量 (m ³ /日)	備考
公共下水道	大田	537	10,000	4,500	4,420	実施中(14年経過)整備率35.2%
特定環境保全 公共下水道	温泉津	28	900	300	220	実施中(14年経過)整備率85.1%
	仁摩	85	2,500	910	740	実施中(16年経過)整備率85.7%
農業集落排水	波根西	10	240	100	80	
	元井田	14	110	60	40	
個別処理	上記以外	42,897	13,380	6,350		実施中 設置基数656基(H29年度末)
計		43,571	27,130	12,220	5,500	

◆ 見直しに至った経緯

①人口減少が続いており、根拠諸元を見直す必要が生じたため。

- ・前回と同様に、直近の平成 27 年度の国勢調査確定値により更なる人口減少が見受けられたことから、推計を見直すこととした。

(H27 年度国勢調査) 35,166 人

(R 2 年度国勢調査) 32,846 人 ⇒ 2,320 人の減少

(率にして約 6.6%の減少)

②平成 29 年度に、国の今後の下水道整備計画の基本方針が明確に示された。

【10 年概成方針】

- ・国は、現在下水道が未普及である地域に対し、令和 8 年度末までに下水道整備が概ね完了するよう、整備計画を抜本的に見直すよう県に要請した。県は、国の要請を受けて県内でも整備の遅れている石見部の市を中心にヒヤリングを行い、目標達成に向けた計画策定を求めてきている。

【大田市の整備方針】

国・県の 10 年概成方針に基づき、島根県全体で整備の進捗を図ることを目標として、整備手法の見直しを検討することとした。

◆ 計画諸元

将来人口などを想定する計画目標年次は、10 年概成を目指して整備計画を見直したことにより、計画区域全体の整備完了予定年度である令和 12 年度末とし、平成 27 年度の国勢調査を元に計画諸元を設定しています。

- ・ 将来計画人口 ⇒ 平成 30 年 10 月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の『日本の市区町村別将来推計人口』の推計値である 27,124 人としています。
- ・ 将来計画世帯数 ⇒ 将来推計人口を将来世帯当り推計人員により割り戻して 12,208 戸としています。

表 4 計画諸元

計 画 諸 元	現 行	見 直 し
計画目標年次	令和 12 年度	令和 12 年度
将来計画人口	27,130 人	27,124 人
将来計画世帯数	12,220 戸	12,208 戸

新たに設定した計画諸元を用いて、経済性・整備需要・地域特性の現状等を基に比較検討を行いました。

大田処理区の周辺区域(未着手区域)を集落の塊ごと(11 区域)に分けて検討しました。検討の内容は、「現行どおり集合処理区域(下水道)として整備」、「個別処理(市設置型浄化槽)区域」とした場合の 2 つのパターンについて、新たに設定した計画諸元を用いて経済性・整備需要・地域特性の現状等を評価し、評価点満点 20 点のうち 2/3(14 点)以上の点数となった区域について、集合処理が優位と判断し、下水道整備区域として計画し、その他の区域については、個別処理区域に変更することとした。

表 6 検討結果総括表

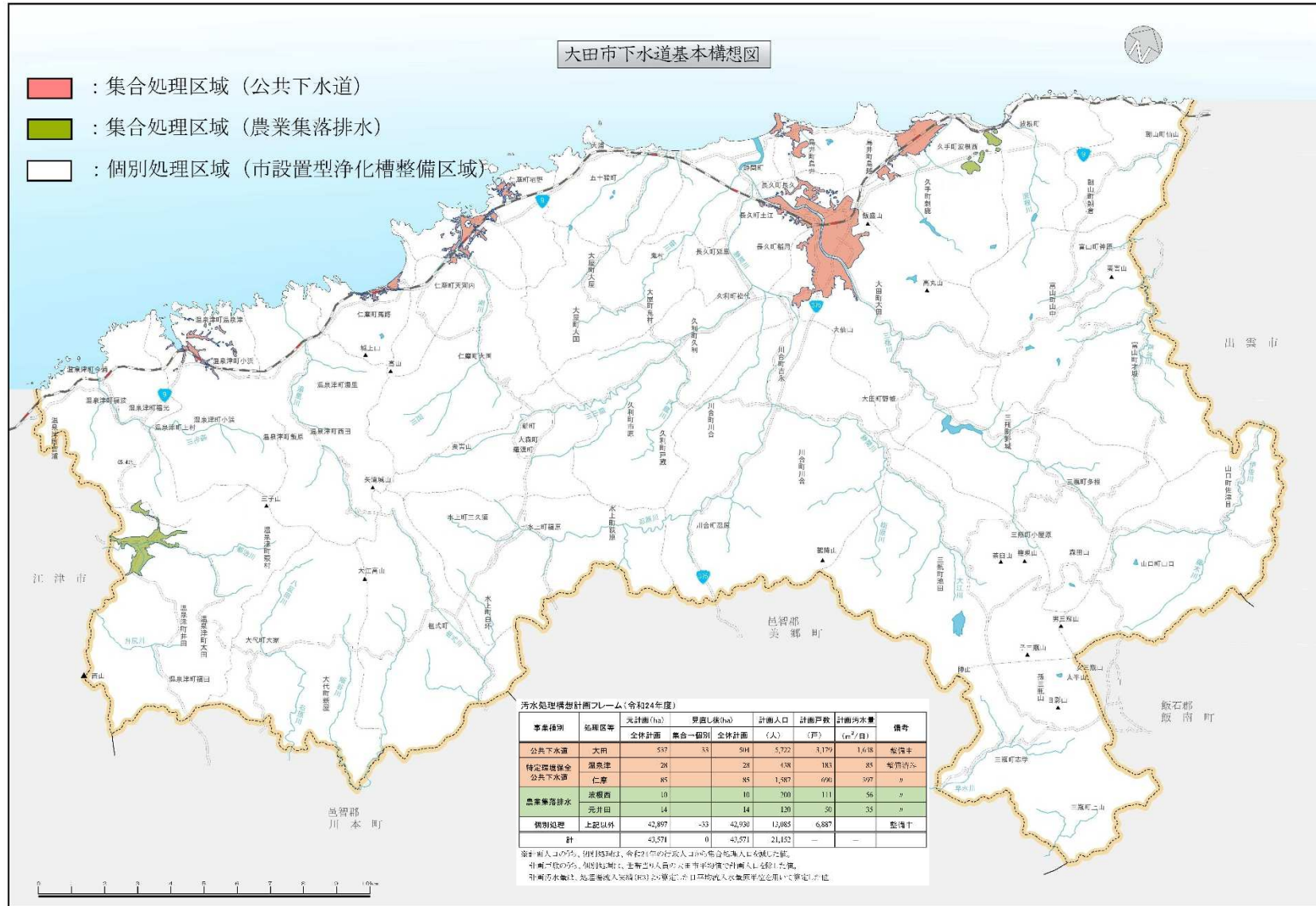
地域	検討対象区域番号	位置	経済性									整備需要											地域特性				合計点	見直し対象							
			経済区分1			区分1	経済区分2			区分2	人口区分							区分3	区分4	区分5	都市計画区域	区分6	区分7												
			集合処理計①	個別処理計②	割合①/②		1.0	1.5	2.0		R3実績			R24推計値										人口割合											
			(千円/年)	(千円/年)		(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	般住宅(人)③	集合住宅(人)④	計(人)⑤=③+④	事務所等(人)⑥	合計(人)⑦=⑤+⑥	般住宅(戸)⑧	集合住宅(戸)⑨	計(戸)⑩=⑧+⑨	事務所等(戸)⑪	合計(戸)⑫=⑩+⑪	一般(集合)住宅(戸)⑬																
大田	0-0-001	古川	3,605	2,828	1.27	2	1,829	31.5	41位	0	89	-	89	-	89	41	58	-	58	-	58	32	0.65	2	0.78	3	2.49	23.29	1	無	0	R11	0	8	○
大田	0-0-002	新市	5,906	3,251	1.82	1	1,147	7.4	21位	2	24	-	24	139	163	11	16	-	16	139	155	9	0.95	3	0.82	3	0.72	215.28	3	無	0	R11	0	12	○
大山	0-0-003	波根街	23,312	16,671	1.4	2	5,156	8.8	25位	1	290	-	290	402	692	134	187	-	187	402	589	104	0.85	2	0.78	3	14.33	41.10	2	無	0	R11	0	10	○
大田	0-0-004	柳瀬	43,799	26,673	1.64	1	5,645	4.6	15位	2	305	-	305	1,040	1,345	141	198	-	198	1,040	1,238	110	0.92	3	0.78	3	15.40	80.39	3	無	0	R11	0	12	○
大田	0-0-005	掛戸	628	162	3.88	0	299	27.2	39位	0	-	-	-	11	11	-	-	-	-	11	11	-	1.00	3	-	0	0.16	68.75	3	無	0	R11	0	6	○
大田	0-0-006	大原(河川側)	8,053	5,185	1.55	1	1,628	7.8	23位	1	65	2	67	166	233	31	41	2	43	166	209	24	0.90	3	0.77	3	6.44	32.45	1	有	2	R8	3	14	
大山	0-0-013	和江港	23,021	16,263	1.42	2	6,159	11.3	30位	1	309	-	309	346	655	143	200	-	200	346	546	111	0.83	2	0.78	3	12.16	44.90	2	無	0	R11	0	10	
大田	0-0-014	和江港	205	177	1.16	2	95	23.8	38位	0	4	-	4	-	4	2	4	-	4	-	4	2	1.00	3	1.00	3	0.11	36.36	2	無	0	R11	0	10	
大田	0-0-018	和江(魚野屋)	2,871	678	4.23	0	1,139	20.7	37位	0	-	-	-	55	55	-	-	-	-	55	55	-	1.00	3	-	0	0.94	58.51	3		0	R11	0	6	
大田	0-0-019	縮田	12,003	6,812	1.76	1	1,193	3.4	13位	2	54	48	102	287	389	47	34	31	65	287	352	36	0.90	3	0.77	3	8.00	44.00	2	有	2	R10	1	14	
大山	0-0-037	天神・日の出	25,392	19,812	1.28	2	5,614	8.8	26位	1	402	93	495	323	818	229	259	59	318	323	641	177	0.78	2	0.77	3	19.40	33.04	1	有	2	R7	3	14	

区分	評価対象	評価基準	評価値				点数の考え方	
区分1	経済性	集合処理区域として管路を整備した場合と個別処理区域として合併浄化槽を各戸へ設置した場合の建設費及び維持費の比較	事業費比較による下水道整備の優位性				3:0~1 2:1~1.5 1:1.5~2 0:2~	集合処理有利となる1以下を3点。その後は0.5刻みで配点
区分2		区域内1人あたりに対する建設費用	人口1人当たりの投資費用				3:0~11 2:11~22 1:22~33 0:33~	全区域を均等割りして配点
区分3	整備需要	R3から20年経過したR24の人口推移予測	人口動態による下水道整備の優位性				3:0.9~ 2:0.6~0.9 1:0.3~0.6 0:~0.3	平均値以上を3点。それ以下を3分割して配点
区分4		R3から20年経過したR24の世帯数推移予測	世帯数動態による下水道整備の優位性				3:0.7~ 2:0.5~0.7 1:0.2~0.5 0:~0.2	平均値以上を3点。それ以下を3分割して配点
区分5		R3から20年経過したR24のha当たりの人口密度	人口密度動態による下水道整備の優位性				3:50~ 2:33.3~50 1:16.7~33.3 0:~16.7	平均値以上を3点。それ以下を3分割して配点
区分6	地域特性	都市計画区域における用途地の有無(目的税の納入地域)	都市計画事業としての整備の必要性				2:有 0:無	用途地域を2点。
区分7		下水道整備における建設予定年次	R8概成を勘案した計画の実現性				3:0~8 2:9 1:10 0:11~	概成(R8)までを3点。それ以降は1年ごとに減点

◆ 見直し結果について

上記検討結果により、下記のとおり変更することとした。

図 2 見直し後の大田市下水道基本構想図(新下水道構想)



◆ **見直しによる令和8年度末概成の目標達成について**

見直した計画による下水道整備により、整備面積を縮小することにより令和8年度末の整備進捗を図ることとした。

◆ **今後の見直しについて**

国による概成基本方針は、令和8年度までとなっており、令和9年度以降の整備方針は不明である。国の動向及び社会情勢の変化等に注視し、5年後を目処に見直しを含め検討することとしたい。